

'86 課題を語る

中嶋 嶺雄氏 (東京外語大 教授)

新段階の日ソ関係

(4)

ソ連共産党第二十五回大会が開幕した二月二十五日

は、三十一年前にあの歴史的な「スターリン批判」が敢行された日。現代史にとって画期的な日、それも昨年の早い時期から党大会開催を合わせ

年九月に訪ソした際も、連日

ソ連共産党第二十五回大会が開幕した二月二十五日の姿勢に、野心的なソ連の改

道に乗ったし、中ソ関係も

の姿勢に、野心的なソ連の改

のアジア政策に余裕が生まれ

のアジア政策に余裕が生まれ

位が高いところまで成熟して

位が高いところまで成熟して

たつて、ソ連側から見れば、

たつて、ソ連側から見れば、

討すべき時ではないか。今の

討すべき時ではないか。今の

を返還してもらって、残る二

を返還してもらって、残る二

「領土」は買い取り検討を



東大大学院国際関係論課程修了後、52年から母校東京外大外国語学部教授。日本国際政治学会理事やアジア政経学会常務理事などを務め、56年度にはサントリー学芸賞を受賞。著書に「現代中国論」、「中ソ対立と現代」、「北京烈烈」、「現代中国の政治と戦略」など。松本市出身。社会学博士

段階といえます。ソ連は、大きく変わろうとしている。

ソ連を取り巻く環境は、かなり改善されている。米ソ首脳会談で、米ソ関係は一応軌

はゴルバチョフに有利に展開

のソソ関係が照進されたこと

宮嶋馬さん(参院議員)や小

は、ソ連が軍事的に使えるカードで、日ソの

相互依存関係をソ連にとって

相互依存関係、強力に

これは事実です。これが出来れば国際紛争もかなり解決するかも知れません。日本が要求している四島返還は、ソ連が軍事的に使えるカードで、日ソの相互依存関係をソ連にとって有利に展開させること、日本の安全にとっても必要になっていきますね。